
井戸端だより

第 72 号

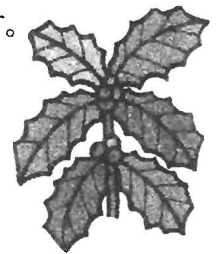
発行日： 2010.12.21

発行： ぐらしの学習会

北朝鮮軍による韓国大延坪島(テヨンピョンド)に対する砲撃は、世界中に恐怖を与えました。平和ボケしている日本人にも、戦争が決して無関係なものではなく、身近に起こりうるのだという不安を与えたように思います。直接の相手である韓国の対応、そして北朝鮮の後ろ盾である中国の対応がきわめて重要でしょう。そして、日本の対応はどうあるべきなのでしょう。

ウィキリークスによる米外交文書の暴露は、国家間の関係に大きな影響を与える極めて重要な機密の流れうることを示しました。報道の自由か、外交の機密保持か、国民の知る権利と国益とのバランスをどう取るか、大きな問題を突き付けられたような気がします。

第 72 号の井戸端だよりをお送りします。読んで何か感じていただければ幸いです。



目 次

・10・11・12 月例会報告P.2
・古文書入門P.2~3
・愛媛新聞切り抜きP.4
・今年のもみじはよい紅葉P.5~7
・松山市民劇場P.8
・一人旅P.9
・韓国へP.10~14
・2010 年ウォーキング元年P.15~18
・雑感 from 綾P.19~21
・お知らせ・編集後記P.22

10・11・12月例会報告

9月例会で「蝶の来る庭＋自然再生」というテーマで何かパネル展のようなものを作ろうということが決まり、動き出しました。以下現在までの進捗状況です。

【蝶のくる庭 写真展に向けて】

庭で蝶を飼っている人を紹介しようという事で、写真展を予定しました。

9月例会・・・この一年間、蝶を観察してきたSさんの写真を中心に展示をすることにした。

10月例会・・・ジャコウアゲハに限定することに決定した。

11月例会・・・産卵から羽化までを、一枚のパネルにまとめた。

12月例会・・・庭の様子も入れて、残り3枚のパネルも作成した。

次回は、この4枚のパネルに説明文を入れて完成させる予定です。

来年3月を目指して、頑張りましょう。

(K・K)



古文書入門講座

東温市の広報に古文書入門講座の受講生募集があり、興味を惹かれた。最近、物覚えが悪くなり記憶回路の不確かさに憂慮していた私は、講義を受ける事に興味を惹かれたこの時を逃してはいけないと、電話して受講することにした。古文書解読に興味はもちろんあるが、この講座受講は自分の脳に少し刺激を与えたいという気持ちも多くある。

講座は、6回限定で10月、11月、12月の月2回午後、1時間半の講義を受けられる設定です。これまで5回が終わり最終は12月24日です。

毎回7～9名の参加で学芸員さんの話を聞きます。

今年初めての講座ではないようですが、いつからでも参加しやすい講座内容だと思います。

講座内容を少し紹介します。

10月第1回は古文書とは何か〜について学習した後、変体仮名を習いながら古今和歌集の序文を読み進みました。

2回目以降は、日本語音韻の変遷などの解説を交えながら現存している、江戸時代や明治時代の借用証文を読める機会がありました。この講座を受講している特権で、東温市歴史民族資料館所蔵の古文書を見ることができます。

墨色の褪せていないそれらの古文書を見るだけでも嬉しいのに、証文の書き方や利息等の決めごととも面白く、時間が過ぎるのを早く感じます。

慶應二年、松山藩と大洲藩の間で取り交わされた”覚”という一札からは、村政のしくみから藩と村の関わり方を解説してもらい、知ってるようで詳しくは知らなかった当時の政治のありかたを知りました。

その書面も当然筆で書いた物で、昔の手作業に思いを馳せるひとときを楽しみました。

因みに”覚”の内容は、男女の傷害事件を男が自殺したことにより和解を促して、表向きにしないという覚え書きの一札でした。

他にも、陰陽道（おんみょうどう）の五行（木、火、土、金、水）それぞれを兄（え）弟（と）にわけて十干にあてはめ、十二支に配して年や日を表すやり方の解説もありました。暦などに書かれていて、言葉 だけは知っていても意味や読み方を全部は知らなかった私は、十干や干支順位などの解説に〜フーン、そうだったのか〜の連続でした。講座に参加して何より嬉しかった事は50代後半の今も、自分の中に（知る喜び）が健在だった事を確認できたことかもしれません。

毎回、レジュメを頂き中央公民館で1時間半の講座を受講して、なんと無料です。

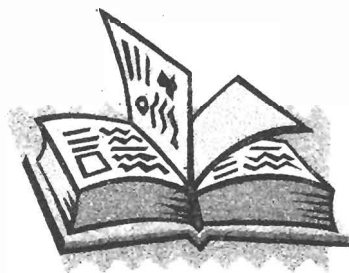
嬉しいでしょ！！

今年は終わりですが、このような講座には時間が許す限り、来年も参加したいと思います。

講座情報をお持ちの方、”井戸端たより”を通じて教えて下さい。

お待ちしております。

(R・D)



2010.12.6(月)

2010年末記者ノート

1

2010年も残すところわずか。参院選や知事選をはじめとして目まぐるしい一年だった。景気回復が思わしくなく、地域を元気にしようという取り組みも各地で見られた。県内外でニュースや話題を追った本社・支社局の記者たちが今年を振り返る。

2010年度がスタートしたばかりの4月2日、東温市では産業廃棄物処理に絡む贈収賄事件が発覚した。08年と今年1月には職員による引事件が発生しており、度重なる不祥事で市民からの信頼感は揺らぎ、市の管理体制の問題なども浮き彫りになった。

相次ぐ職員の不祥事

東温市

定め、定期的な人事異動の徹底などの対策を示したが、繰り返された不祥事に市民の不信感をぬぐいきれたとは言い難い。再発防止は当然のこととして、より具体的な改善策も不可欠となる。市幹部らが事件のたびに口にする「綱紀粛正」「信頼回復」の言葉の重み

管理体制の不備露呈

具体的な改善策不可欠

事件は産業廃棄物施設への苦情処理について便宜を図る見返りに、処理業者から金銭を受け取ったとの構図。贈

8月に松山地裁で懲役1年、執行猶予3年の有罪判決を受けた。事件の背景が判明す

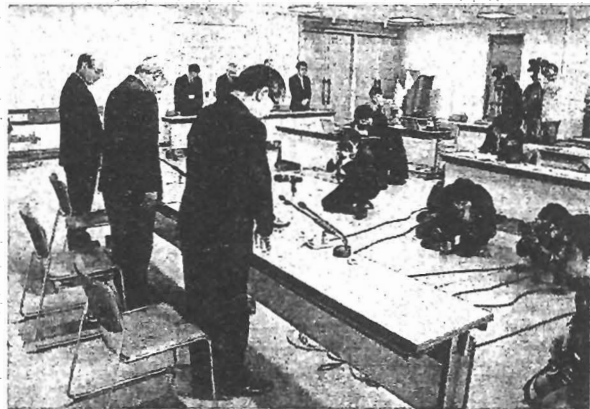
明らかに、市議会を、一度、再認識を求めた。一方、環境分野では、市は職員倫理規定を

温市は合併以来、独自の新エネルギー構想を打ち立てるなど、環境行政に力を入れてき

た。10月に発表した二酸化炭素(CO₂)削減プロジェクトもその一つだ。

市内の太陽光発電システム設置世帯のCO₂排出削減量を、排出権として数値化。市商工会が買い取り、市内の特産品などと交換する

仕組みで、国の制度を活用して環境保全と地域経済の活性化を目指す取り組みは国内初という。



贈収賄事件で職員が逮捕されたことを受け、会見で陳謝する東温市幹部ら＝4月3日、同市役所

市新エネルギー推進室によると、申し込みは現在約50件で、初年度は70％程度の削減見込み。同室は「子どもたちの教育を含め、環境に対する取り組みが浸透してきた」と成果を強調。今後市内の行政企業、住民を循環する「環(わ)」の構築に力を入れたい考えだ。

「環境先進のまちづくり」は、合併時の住民アンケートに基づき、新市総合計画の柱に据えられている。行政と市民の協力で魅力的な施策がさらに展開されることを期待したい。(社会部・伊藤絵美)

今年のもみじはよい紅葉

今年の紅葉、全国的にとっても綺麗だったようです。京都の紅葉中継を見て今年八年振りの素晴らしい紅葉だそうです。ご多分に漏れず愛媛でも良い紅葉が見られ早速出かけてみることにしました。

10月23日（土）石鎚の初冷えをニュースで知り初めての石鎚スカイラインへ。面河溪からうねうねとした道路を上ること20分、道すがらのもみじはあまり色付いてはいませんがあるカーブを曲がった途端、真っ赤や真黄色が目飛び込んで来ました。車を止め人々が眺めたり写真を撮ったりして楽しんでます。取りあえず終点の土小屋まで行ってみることに。途中何箇所も素晴らしい紅葉スポットを眺めながら進んで行くと土小屋付近は満車の駐車場状態、観光バスが路上駐車をしています。登山ブームもあり、リュックを背負った中年の登山者が大勢スタンバイしています。やっとの思いでUターンを少し下った展望台で絶景とはいえない紅葉が始まったばかりの山々を眺めながら「道の駅みかわ」で買っておいた大きないなり寿司を頬張り昼食。山を下り国道を走らせていると『久万青銅之廻廊』入り口の並木の色付きが気になり「何の木かなあ？きれいよね」と主人に聞くと「あれはメタセコイヤだと思うよ」との返事。そんな会話をしつつ帰路に就きました。

11月20日（土）急遽都合の付いた「くらしの学習会」メンバー三人で内子石畳地区へ。屋根付き橋や石畳東のしだれ桜で知られる山里で鮮やかな紅葉ではありませんが、しっとりとした普段着の紅葉といった感じ。NHKドラマ「坂の上の雲」のロケ地にもなった屋根付き橋や室町時代に創建されたと伝えられる弓削神社（屋根付き橋の奥にひっそりとある）石畳の宿（パンフレットによると農家の生活体験や都市・農村生活者との交流を通じて田舎を満喫していただくため、地元の古い民家を移築し、宿泊施設にしたもの）を見学させていただき、1階には囲炉裏端のある板間と廻り縁のある座敷と居間2階の客室は屋根裏を改修したもので独特の空間を醸し出しているのんびり過ごせそうなお宿でした。この宿の隣には、毎週日曜日11時～16時のみ営業「古民家カフェ～つるばみ～」がありコーヒー¥250ケーキセット¥500です。残念ながら土曜日だったので寄り道できませんでした。昼食は地元で育てた蕎麦を使った『そば処 石畳むら』で新蕎麦をざるで頂きました。太めでし

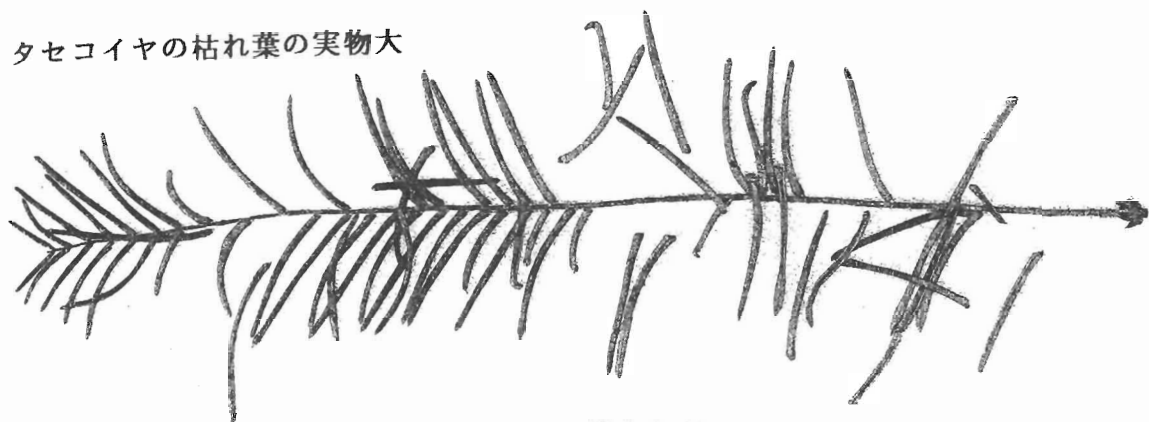
っかりとした二八蕎麦で腹持ちの良いお蕎麦でした。天然水でゆでた蕎麦の蕎麦湯もとても風味豊かで美味しかったです。次の日が「新そばまつり」で、この日は十割り蕎麦が味わえるとの事、残念でした。このそば処は東のしだれ桜がしっかり見える場所にありました。桜の時期は混雑しそう。この後「道の駅からり」でお買い物をし休憩後帰路に就きました。Tさん運転お疲れ様でした。お天気もよくて良い一日でした。

11月27日（土）朝から雲一つ無い天気だったので気になっていた久万町のメタセコイヤを見に行くことにしました。約40分国道33号線沿いにある久万カントリークラブ入り口かられんが色のメタセコイヤの並木が続いています（メタセコイヤはスギ科の落葉針葉樹。並木道は約200mで、1977年のゴルフ場にあわせて植樹され、現在は高さ30m以上幹回り約2mに育っている。11月23日付愛媛新聞の記事より）れんが色の並木道を歩くと落ち葉がサラサラと音を立てて舞い落ちてきて、かすかに森林の香りを感じ冷たい空気とあいまって頭がすっきりするようでした。ちょっとお洒落な感じの紅葉スポットです。私設美術館『久万青銅之廻廊』へは何度も訪れていますが春ばかりで緑の鬱蒼としたトンネルを抜けるイメージが強く、紅葉がこんなに素敵だとは思いませんでした。紅葉を楽しんだ後、久しぶりの美術館で藪内佐斗司作の童子達にご対面（藪内氏は平城京遷都1300年キャラクターせんとうの作者）1997年に開館以来、山並みを一望できる雄大な環境の中でずっと屋外にある作品は、陽射し・風雨・雪などに晒され少し色合いが変わった気がします。水辺でたたずんでいる犬くらぶのおでこに何か虫の卵のような物がこびりついてかわいそうでした。陽光をいっぱい取り込むメインギャラリーで紅茶を頂き（¥500の入館料でこのサービスが受けられる）贅沢な時間を過ごしました。美術館の職員の方の話によると、メタセコイヤの新聞記事を見て尋ねて来る人が増えたそうで、この美術館の存在を新たに知った人もいたでしょう。駐車場に帰るとフロントガラスにれんが色の枯れ葉が。走り出すとふわーと飛んでしまいました。私たちと入れ替わりに二組のご夫婦が紅葉を堪能していました。残念ながら紅葉は11月いっぱい、美術館も12月～3月迄休館になるので来年のお楽しみと言う事になります。タイミング良く冬籠もり前々日に訪れる事が出来ラッキーでした。この後、気にしながら車で

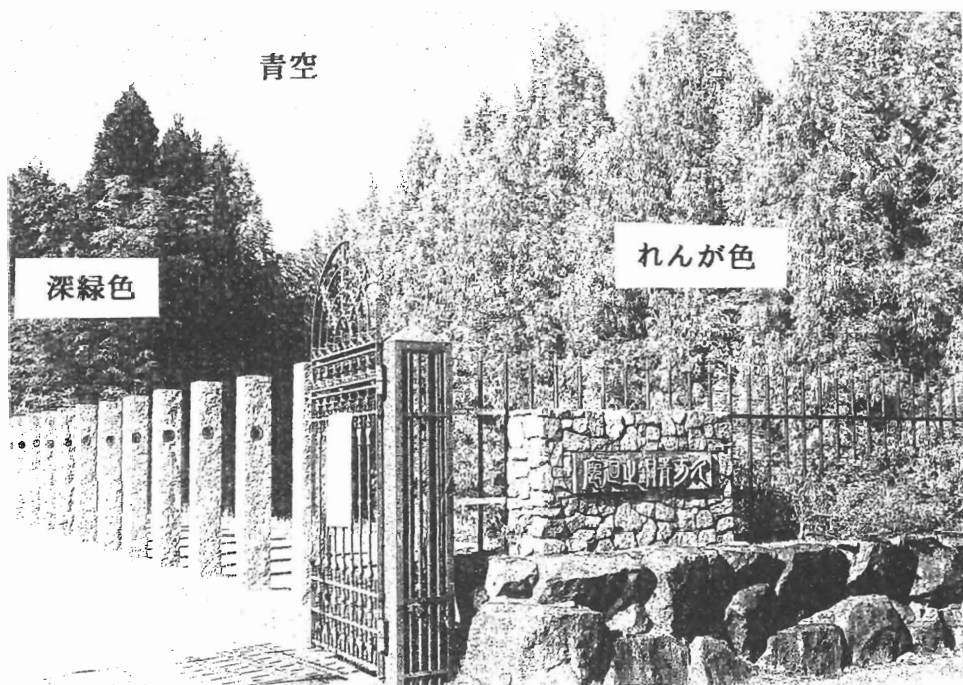
走っていると石手川ダム周辺にも数本あり、「タオル美術館」の庭園にもメタセコイヤの木立ちを見つけました。

三か所それなりの個性ある紅葉を書き綴ってみました。皆さんも素敵な紅葉を楽しめた今年の秋だったのではないのでしょうか。 (A. M)

メタセコイヤの枯れ葉の実物大



残念ながらコピー時にばらけてしまいました



松山市民劇場

市民劇場の看板を横目にしながらの通勤、仕事をやめたら入ろうと。その念願が叶ってからもう9年が過ぎた。その間、俳優座をはじめ文学座、民芸、こまつ座、前進座など多くの劇団の作品を観た。(年6回の公演)

今年12月公演は海流座の「新・裸の大將放浪記」。市民劇場は会員制のため一年に一度の当番が回ってくる。いつもは例会までの準備と例会時の会場運営に参加していたが、今回は終演後の夕食交流会にも参加した。

海流座は2000年米倉斉加年さんが劇団民芸を退団し、「ステージ人生の最終章を仲間と共に全国の旅回りで生きたい」と立ち上げた。その演目が「新・裸の大將放浪記」。かつて大反響を起した師の宇野重吉さんと芦屋雁之助さんとのコンビの「裸の大將放浪記」、二人が相次いで亡くなられた後、師匠の遺志を引き継ぎ雁之助さんの弟の小雁さんと「米倉・小雁」のコンビで「新・裸の大將放浪記」が誕生した。詳しい内容はさておき、貧乏で、戦争もあったが人の心は今よりもっと豊かだった昭和の時代を純粹に生きた山下画伯を見事に演じ、私達に生きる喜び、楽しみ、哀しみ、怒りを伝えてくれた。

2時間30分の余韻もさめやらぬうちに当番の仕事。舞台にあがり小道具・大道具の片づけの手伝い。スタッフの指示でトラックに積みこまれていく。先ほどまで熱演していた役者さんも汗を流している。聞くところのよると主役級以外の方は全員その都度舞台道具の搬入搬出をするとか。何も無くなった舞台から客席を眺めるのも乙なもの。

終演後18:30から2時間余り夕食交流会。会費3,500円なり。劇団員5名と市民劇場の会員20名が大街道の「やき鳥屋」に集合。米倉斉加年さん親子も参加。私の斜め前には巡査役の山梨光圀さんが座ってくれた。私服に着替えると全くの別人。気さくに裏話などもユーモアたっぷりに応えてくれる一方、過酷な労働条件や競争社会の厳しさの中で自分を鍛え困難を乗り越えて好きだから出来る楽しさを教えてくれた。松山市民劇場は1965年に発足以来220回もの公演が続いている。然し私が入会したころは2,000名を超えた会員も今1,000名程になった。地域社会の文化の火をいつまでも灯し続けたいと心から思った。

(S・K)

一人旅

ひとり旅、四国八十八か所巡りではありません。観光旅行でもありません。弱い夫を残しては一泊でも出かけることはできません。私の一人旅は、重信川の土手を歩くことです。

今年の7月、弟が肺癌で亡くなった。立ちたい歩きたい、それだけの望もかなえられず、逝ってしまった。

私が弟にしてやれること、それは歩くことだと思いついたのが8月のお盆、お墓参りの後、足の悪い私が、10メートル歩いてはスクワットし、又10メートルと一日、一日と距離を増し、1キロメートルの往復が出来る様になった。始めた頃は朝5時20分に家を出て帰って来るのが6時、私に別世界が拓がったと思う様な出来事だった。何と土手を出ると歩く人、歩く人、ご夫婦で楽しく会話しながら歩く人、犬を連れて歩く人、本を読みながら歩く人、その人々の生活が見えてくる様である。

1キロメートルの目的地は花キセンター。ここで一休み、帰りは皆我が家に向かうので私も一人で頑張るしかない。重信川の本流は水枯が多く、川岸は市の問題になっている野犬が、朝から走り回っている。時には土手迄上り物欲し気についてくる事もある。ちょっと怖いが悪さはしない。畑を越えると用水路が、小波を立てながら気持ち良さそうに流れている。

農家の人達は良く考えたものだ。この用水路は、それぞれの田をうるおし余った水が用水路に戻り又次へと流れていく。日本の農業の米作りが問題になっているが、私達の主食である米作りは伝統の上に研究を重ね、世界の人々から美味しいと言われる米を作り、輸入米に打ち勝って欲しいものである。

そのうち我が家が近くなると、柿がすずなりで獲る人がいないのだろうか。自給率14パーセントなどと言われる事を笑っている様にも思われた。

8月に歩き始めて、雨の日や大風の日には休み、三か月が過ぎた。ただ2キロメートルを一人で黙々と歩くことで、自分なりに納得し自分に打ち勝ったと思っている。続けられた心の強さ、その中でいつの間にか鍛えられた筋肉、血圧が高くて薬だけもらっている医師からは、「76歳の人には思えない」と言ってもらったが、一人旅はいつ迄続くか。終わりの日は、自分に負けた日、体が耐えられなくなった日であると思っている。

今朝も歩いて来た。11月になると6時でも暗く8時にうちを出る様にしているが、毎朝出会った人もいない土手を一人で歩いている。

(Sa. K)

韓 国 へ

松山から韓国へ、11月30日の夕方、飛行機に乗りました。この日の一週間前の11月23日に、北朝鮮の延坪島砲撃があり、取りやめようかと考えましたが、旅行会社からは、特別に何も連絡がなかったので、大丈夫という気持ちで、取りやめることはしませんでした。戦争経験のない私には、緊張感が少しもないというのが、正直なところでした。今一つ、危機感を感じませんでした。

飛行機は、短いフライト時間にもかかわらず、機内食が出たのには驚きました。日本の航空会社が赤字で、今までのサービスを見直そうという時期ですから、日本の航空会社の頑張りが足りないのじゃないかと思ってしまいました。東京へ行く時間と同じ時間で、このサービスの違いはなんだろうと不思議な気持ちです。これでは、国際間競争に勝てる訳がないと、納得してしまいそうです。世界の航空業界で、国際的に求められているニーズとのギャップを日本の航空会社は埋められないのではないかと。その差があまりにも大き過ぎます。

元来、高所恐怖症、乗り物酔い等、飛行機にはあまり乗りたくない私ですが、途中、多少の揺れはあったものの、左程の気持ち悪さも感じないで、仁川空港に到着。2001年の開空以来、韓国の顔としての役割を担っている空港は、期待を裏切らないスケールの大きさに、さすが、2010年、国際空港評議会でNO.1になっただけのことはあると思わせてくれました。日本の小さな町の小さな空港からやってきた私に、韓国と言う国の近代化を十二分に感じさせてくれ、一国の表玄関の役割を担う国際空港に降り立ったという感動を味わえました。

日本人にとって、近くて、遠い国だった韓国を身近に感じさせてくれたのは、日韓共催のワールドカップがあった2002年だと思います。翌年、2003年は韓国ドラマ「冬のソナタ」が人気を得て、韓国映画やドラマが日本で爆発的に流行しました。映画やドラマの俳優や女優の知名度は、日本人俳優以上になり、韓流ブームの到来となりました。日本人にとって、韓国は、行ってみると、案外近くて、外国気分も味わえる手軽な旅行先になるには、時間もかからなかったようですが、私は、旅行先に、韓国を選択する気持ちにはなれませんでした。

今回、外国が初めてという同行者が選んだのが韓国でした。松山から、手軽に行ける外国というのが、彼女が選んだ理由でした。彼女の第一の目的は、免税店で、ブランド物を購入することでしたので、絶好の場所だったのです。二年前からの円高で、買い物目的の旅行者は驚くほど増えているそうです。

私は、昨年から今年にかけて、二ヶ月ほど、韓国のテグ出身の音楽教師と時間を

共有することがあり、韓国に興味が出てきていました。韓国人の彼女は、韓国の公立の中学校で音楽を教えていましたが、ご主人の仕事の関係で、日本へ来ていました。日本へ来る前は、一年、ドイツに住んでいたそうです。彼女と過ごす時間は実に有意義でした。韓国では、いわゆる、産休が3年間あり、続けて取ってもいいし、とびとびでも可能であるとか、世界で一番物価が高いのは日本だとか、(アルバイトをしたお金で、学生時代に、世界中を飛び回ったこと、このアルバイトも、ピアノを教えることで、時給が並外れてよかった)

日本が好きで、10回以上も来たこと(京都の文学の道、北海道、大阪、東京長崎等、私よりも良く知っていました。)、ドイツの子供手当の事や移民問題(トルコ人)の事、オランダの免税店の破格の値段、チューリップ市場の巨大さ等、振り返ると、いろいろな話をしていました。ただ、日本と韓国の歴史については、話す機会がありませんでした。日本語と英語でのやり取りでしたので、これを話題にするには、お互いの言葉に対する不安がありました。彼女の帰国後の連絡によると、急な帰国になってしまったので、元の学校ではなく、私立の幼稚園から大学まである学校に就職したそうで、職員室の机の隣の席が日本語の先生だったらしく、日本語の勉強ができるということでした。この魅力ある彼女との出会いが、私に、韓国へ行こうという気持ちにさせてくれました。

ソウルについた一日目は夜でしたから、免税店に立ち寄り食事をする、ホテルへ。場所は、南大門の近くです。ここは、買い物には便利だそうですが、初めての国で、言葉が全く話せないという負い目もあり、出かけませんでした。

二日目は、青磁の窯元、22代の王様が築城された華城、ソウルの中心のビオトープのような川を再現した新しい名所(以前は屋台が並んでいた場所)、屋台の不衛生なイメージを払拭し、今では、ソウル市民の憩いの場所になっているそうです。もうすぐ、クリスマスになるので、ライトアップの準備中でした。この川は、人工的なものですが、この川の上流は、北から続いているものです。カジノ、南大門散策 明洞等、夜遅くまでの予定に疲れて、ツアーとは、こういうものだと再認識しました。行きたくないと思っていたカジノも、経験だからと言われて、もらったカードで当たりが出るとうれしくなるのは人間の性です。お金は使いませんが、カジノ体験ができました。残念だったのは、青磁には魅力を感じなかったことです。愛知万博に出展していた有名な人の窯元だそうですが、何も購入しませんでした。窯元の方には悪いなあと感じてはいたのですが、買って帰ろうとは思いませんでした。帰りのバスの中で、ガイドさんが元々の韓国の陶芸文化の多くが日本へ行ってしまっ、韓国でも青磁の再現をしてはいるが、と言葉を濁したような説明をされたような気がします。高額なものには手が出ませんから、比較的、購入しやすいものとなると、磁器の技術は、古来の韓国技術の再現には成功しては

いるのですが、日本人のそれとは差があるように思いますし、値段も高かったです。

ソウルから1時間くらいの所にある華城は、石とレンガを取り入れたヨーロッパ式の築城技術で、1796年に完成しました。城壁の素晴らしさは、時の王様の権力の偉大さを感じますが、完成直後に王が逝去、幻の都となりました。華城の1周は5、52Kmにも及び、1997年には世界遺産に登録されました。東西南北に門を構えてあり、色違いの旗が掲げられ、実に、偉大な城壁で、万里の長城のようなイメージをもちました。30分ばかりですが、ガイドさんの案内で、勾配のある城壁の上を歩きました。広い土地を取り囲むような城壁の作り方に、国内ばかりか国外からの侵略に備えるには、絶好の場所だったのではないのかと想像しました。しかしながら、ソウルから都を移す計画は、実行されないままになりました。22代の王様の死には、いろいろな憶測があるそうですが、もしも、10年寿命が長かったら、韓国の歴史が変わっていたかも知れません。攻め込めない城壁を造られた22代の王様の偉大さに、国内国外の様々な脅威が及んでしまったことで、その後の韓国の揺れ動く歴史の幕開けになってしまいました。其の悲惨さの一端を日本人が担ってしまったこと、忘れてはいけないことだと思いました。

ソウル市役所が建て替え中でした。旅行中、何度も、この前を通過して移動しました。弔という字を掲げて、式典のようなものが行われていましたが、23日の北からの砲撃で亡くなった人のためのセレモニーだろうとガイドさんの説明がありました。この時まで、北の砲撃があったことを感じる場面はありませんでした。私たちが行くところは、観光客が行くところばかりですから、戦争とは無縁の印象しかありません。しかし、セレモニーを見たこの時は、日本で見たテレビの映像が目には浮かび、北の砲撃があったことの実感が湧きました。黒い服を着た人が、それもあまり多くない人数で、ひっそりと、しかし、その場所は、市役所の前。韓国の人は、時折の北からの攻撃で、戦争を身近に感じる機会が、生活の中にあるんだろうと思われました。

この夜、と言っても翌日の午前3時ころに、どーんという地響きの音が、ホテルを包み込みました。びっくりして、飛び起きました。司行者は、砲撃だと思ったそうです。やはり、昼間に見たセレモニーの印象が心に残っていたのでしょうか。その後は、静かな時間がきましたが、かみなりだったんだという確信がもてないので、その日は寝不足になってしまいました。

三日目の観光では、ソウル市内の景福宮が印象的でした。華城が世界遺産に登録されている事を、前日に聞いていたので、国の王宮である景福宮も当然、世界遺産だと思っていたのですが、そうではありませんでした。歩きながらのガイドさんの説明で納得しました。此处では、改めて、1910年から1945年までの朝鮮併合時代

がくつきりと現れました。この時代に、多くの朝鮮王宮の建築物が壊されたので、景福宮の建築物も再建されたもので、それも、最近、完成されたので、新しい王宮なのだとの説明を受けました。韓国人にとっては、無くなっていたルーツのひとつが完成したことに、ほこりを感じていることでしょう。日本人向けのパンフレットには、併合時代の記述はありませんでしたが、確かに、景福宮内の民俗資料館の歴史年表には、1910～1945までの併合時代の記述がありました。その時代に、庶民ばかりか朝鮮の王宮文化をも壊してしまった日本人に対する気持ちは、複雑だろうなあと思いました。日本語の上手なガイドさんは、「私たちにとって日本語は外国語の印象がないんですよ。」と書いていましたが、その意味することをどう捉えたらいいのかなあと、気持ちは複雑でした。この日は、私たち二人だけのガイドでしたから、観光地の説明だけでなく、個人的なソウル市民の事などの話もしました。

(景福宮の説明をインターネットで調べました。)

景福宮は1395年(太祖4年)創建された李氏朝鮮の正宮。易姓革命で1392年、朝鮮を建国した李成桂(イ・ソンゲ)とその支持者たちが首都遷都を決定し、即位から3年後の1395年、高麗の首都である開京(ケギョン・現在北朝鮮にある開城(ケソン)の旧名)から首都を漢陽(ハニャン、現在のソウルの旧名)に移す過程で造られた宮殿で、現在の青瓦台(チョンワデ・大統領官邸)のような機能をしていた李朝の心臓部でした。景福宮の「景福」は、「詩経」に出てくる言葉で、王とその子孫、すべての百姓が太平の御代の大きな幸せを得ることを願う、という意味だそうです。

景福宮は1592年(宣祖25年)、豊臣秀吉による壬辰倭乱(文禄・慶長の役)の戦火によって全焼するという悲運にみまわれ、それ以降、王宮としても不吉だという理由で273年もの間、再建されなかったそうです。しかし1865年(高宗2年)、興宣大院君(フンソンデウオングン)が再建に着手し、1868年(高宗5年)に創建当時の規模に復元。同年7月には高宗が昌徳宮(チャンドクン)からこの地に王宮を移しました。しかし1895年(高宗32年)、閔妃(ミンビ)が日本人の暴徒に殺害されるという事件があり、翌年2月に高宗皇帝がロシア公館に避難したことで景福宮は王宮としての運命を終えることになりました。

そして1910年、日韓併合によって国権が強奪されるや、景福宮内にあった約200の殿閣のほとんどが壊され、慶会楼(キョンフェル)と勤政殿(クンジョンジョン)などの10棟のみが残り、日本が勤政殿の南側正面に朝鮮総督府庁舎を建てることによって、景福宮の景観は完全に破壊されてしまいました。日本の植民地から解放された後の1945年から朝鮮総督府は政府の中央庁舎、その後は国立博物館と

して使われていましたが、景福宮復元事業（1991年6月5日起工）に合わせて1996年11月14日に総督府の建物が完全に撤去されました。そして現在も少しずつ景福宮のもとの姿を取り戻すために復元工事の真っ最中。この復元工事は2025年！によりやく終わりを迎えるそう！復元の基準は景福宮が最後に完成した姿であった1868年時点で、その当時の姿を再現する予定です。

（参考資料 インターネット 検索サイト SEOUL NAVE ）



三泊四日の韓国旅行、ソウル中心の旅の最後のガイドさんのお話しは、いつか、北とも交流が始まると、韓国、北朝鮮、ロシアを列車旅行できるようになるとも言われていますという言葉と、日本とは、歴史を乗り越えて、これからの未来の交流を大切にしなければいけませんねという言葉が印象的でした。

免税店で、円高の恩恵を受けて買い物をした同行者は、旅行中、ソウルの町を楽しみ、帰国後、さらに、円高が進み、銀行引き落としの日のレートも楽しみなようです。

私にとっても、韓国をもっと知りたいと思わせてくれる旅になりました。次回は、韓国の古い街並みが残っている町を訪ねたいと思います。あれから、北からの砲撃がないことが、何よりです。

（ M・T ）

2010年 ウォーキング元年

2010年元旦、とてもよい天気でしたので歩きで浮嶋神社へ初詣に出かけました。約1時間程度の歩きでしたが冷たい空気がこちよく足はポカポカ。「ウォーキング始めてみようかな」そういう気持ちが起こりました。膝や腰の痛みがあるので、負担の少ないウォーキングは良いと友人や夫に言われていたのですが、あの気持ち良さが後押しをしてくれ年頭の事始めとして続ける事にしました。

夫が以前から自宅から河川敷の工業団地を越え河川敷の行き止まりまでを往復して1時間程度のコースを私なりのペースで歩くことにしました。初めは河川敷まで行くのがやっとで、ベンチ代わりに石に座り夫が戻ってくるのを待つ状態が続き、帰り道は腰がだるく何度も立ち止まり休みながらで時間も1時間50分程度かかっていました。雨が降らない限り歩こうと決め、小雪混じりの日も気合いを入れて出発。暑さが大の苦手な寒さは案外大丈夫なので継続出来そうな気がしていました。週3～5回で3週越えた頃から、決まったベンチ代わりに石に行き帰り座り一休みしながらですが夫と同じコースを歩いていました。時間も少し短縮、回りの景色を楽しむ余裕もでき始めました。畑の麦の芽が出たばかりだったのがグングン伸びヒバリの声が賑やかに。コース途中にいる飼犬が行きは吠えるのに帰りは知らん振り、弘法大師由来の『二つ石の池』の太子堂があったり、歩いてみて知り得る事が沢山あります。重信川の表流水に早春の陽射しがキラキラと輝き、寒さの中でも自然は色々楽しませてくれます。おでこがうっすら汗ばみ足は靴下を脱ぎたくなる位血行がよくなっています。

3月になると、体が少し軽くなったような気がして体重が2kg減、継続の励みになります。この頃から毎日決まった時間に体重測定をする事に。ランチで外食をすると500g程度増える事を知り夕飯は反省御飯を実行。腰の軽い痛みは残っていますが膝の痛みはほとんど無くなっています。河川敷には桜がたくさん植わっていて3月中旬から白い大島桜が咲き始め、濃いピンクの陽光や淡いピンクの大島桜が彩りを添え、ソメイヨシノが咲くと土日は家族連れや仲間同志でお花見を楽しむ様子を見ながら歩きます。最後に八重咲きのピンクのサトザクラが4月下旬まで楽しませてくれました。

桜が終わると河川敷の雑草が伸び可愛い花を咲かせます。ウグイスも上手に「ホーホケキョ」と鳴き始め、二度キジの鳴声を聞きましたが色々な鳥がいて目と耳両方を楽しませてくれます。鳥や植物の知識があればもっと楽しめるのでしょうか。寒い時期から団塊世代以上のご夫婦やご主人が犬の散歩やウォーキングを楽しんでいましたが、陽気が良くなるにつれ色々な世代の家族連れが多くなりマナーの悪い人が増えたのか、犬の糞を避けながら歩く事が普通になり、やってはいけないゴルフの練習をする人もいて困ったものです。逆に、連風・リモコン飛行機・モーターパラグライダーを楽しむ人達を眺められ楽しい事もたくさんあります。5月中旬、雨続きや小旅行で一週間振りに河川敷に行ってビックリ、辺り一面真黄色！！『外来種オオキンケイギク』ニュースによると重信川河口まで続いているとの事。物凄い繁殖力で在来植物の居場所を奪っているとの記事もあり河川工事の困った副産物である。そういえば6月に山陰へ行った時咲いていたし、しまなみ海道でも見掛けたので日本中に広がっているのでしょうか。その後暫くして（一週間位）河川敷の草刈り作業が行われ、腰丈まで伸びた雑草と共に刈り取られ足元がスッキリ。雑草を足で掻き分け糞にも気を付けなくてもよくなり足運びがスムーズになりました。草刈りで虫が捕りやすくなったのかお腹の大きな雀の母さんが低空飛行しながら餌を啄んでいます。その後、雀の姿が少なくなったので、何処かで子育てに動んでいるのでしょうか。

この頃、畑では麦秋の時期を迎え、田植えの準備と相俟ってお百姓さんは大忙し。蓮田にも水が張られ、枯れ枝のような茎から一週間もすると小さな葉っぱが水面に浮かび日々育っていて花が楽しみです。麦刈りが始まり田圃には水が張られ、その水面に里山が写り渡って来る涼やかな風に癒されます。日々、田植えの済んだ田圃の水管理の為見回りをする農家の人々との挨拶が増え、邪魔しない様小走りで通り過ぎていきますか、畔道は暫く外して歩いた方がいいのかも。梅雨には入り暑さも本番を迎えると、朝早く歩いた方がいいと言う人もいますが私には無理そうなので、夕食の支度を済ませ17時頃出発し18時のチャイムの頃に帰る様にしました。家の近くの内川をのぞいていると鴨の子育てが見られ（初め三羽いたのに水量が増え流されたのか7月初旬には一羽になっていて悲しいですが親鴨と同じ位大きく育ち羽ばたきの練

習をしています)青鷺やこぶりな猛禽類(夫はハヤブサだと言う)が餌を狙っている姿を見る事ができ楽しい一時です。以前は汚れた川だったので、下水道整備のおかげか水はきれいになったからでしょうか。しかし、ゴミは相変わらず多いのが残念です。

この夏の暑さは半端ではありませんでした。日焼けを考え始めの内は長袖でしたがあまりの暑さに半袖→ノースリーブとなり半袖の日焼け後がわからなくなっていました。その間にも、稲は青々とグングン大きくなり何時の間にか稲穂が出ています。蓮も大きく育ち、あちこちに大きな蕾が見られるようになり開花を楽しみに週3~4回ペースで歩いていました。今までこんなに外へ出ることがなかったからかも知れませんが虹を4度も見る事ができ何故か嬉しい気分になりました。青く小さかった柿の実も大きくなり少しずつ色付き始める頃、田圃は緑から黄緑に変わり稲穂は黄色く頭を垂れ、早い田圃では8月中旬から稲刈りが始まり、鳥たちの落穂をついばむ光景が見られ、セミの鳴き声もツクツクホウシやヒグラシが多くなり暑さの中に秋の訪れを感じられます。9月になると涼しく感じる日が少しずつ増え始め歩く時間も頻度も多くなってきて、稲刈りの終わった田圃が増え稲わらの匂いを感じながら足取りも軽やかに歩いています。お彼岸の頃にはいつものコースを歩くことができるようになりました(農作業の人が減ってきたので)今年二度目の河川敷の草刈りが行われ、それまでコオロギ等の虫の声が心地よく耳に響いていたのがほとんど聞こえなくなり寂しさを感じました。ウマノスズクサが伸びる程度に刈られたのかも気掛かりです。

ところで、今年彼岸花の咲く時期が遅かったですね。お彼岸前には探さないと目にする事はありませんでしたが、お彼岸も終りヒンヤリとした空気が続くと畔道に突然蕾を着けた茎がニョキッと出てきて、数日で赤く畔道が染まり、10月に入るとキンモクセイの香りと共に彼岸花を楽しめました。この現象も夏の猛暑のせいなのか、律義に毎年お彼岸を知らせてくれた彼岸花も戸惑っているかも知れません。地域の秋祭りも終りウォーキングに適した季節になり歩く人々と出会うことが多くなりました。長袖の人がほとんどの中、我々は半袖が心地好くいい季節になりお天気であれば毎日歩く日々です。河川敷で春私たちを楽しませてくれた一本の桜になんと花が咲いています。

(10/17)枝先に四～五輪3か所程度でしたけれどラッキーな出来事でした。他の桜は色付き落葉している中、冷たい風に吹かれながら11月中旬まで咲き続け、緑の葉(新緑?)が寒そうに枝先で揺れています。来年、花を咲かせることができるのか心配です。

季節は晩秋、日没が早くなり昼食後余り時間を空けず出発しないと夕日を背にしながらの帰路になるようになりました。収穫を終えた田圃を耕し麦を蒔く準備をしている中、ニラよりも細くフサフサした植物が密集している畑を発見。気にしながら数日経過、収穫が始まるとネギの香りが辺り一面漂っています。忘年会用の広告を見ていて気付いたのですが、フグの薄造りのツマとして添えられている『芽ネギ』のようです。まず私の口に入る事は無いであろう高級料理の添え物がこんなに身近な所で栽培されていたのに驚きました。驚きといえば、ウォーキング途中にある一本の収穫放棄されているであろう柿の木が柿色に実った頃、何故か黒っぽく見え近付くと、カラスが数十羽止り啄んでいて鈴生りの果実はアッという間に無くなってしまいました。甘柿のようでしたので毎年美味しく食べていたのでしょうか。そういえば吊し柿にする柿はまだ鈴生り状態なので、分かって食べているカラスは凄く賢い。人間との競争があちらこちらで行われている晩秋でした。

12月に入ると稲刈りが終わった後すぐに耕し麦撒きをした畑では芽が出始めました。稲を刈り残った株から新たに出た葉は緑から枯葉色に変わり、隣合わせの麦の新芽の緑とのコントラストがいい感じです。東温市に住んでいると石鎚山に雪が積もると風が冷たく寒くなるのですが、まだ河川敷で風の冷たさを感じないので気持ち良くウォーキングを続けています。紅葉が終わり景色に彩りが無くなる頃、あちこちの民家の庭先にある椿や山茶花が彩りを添えるようになり楽しみが一つ見つかりました。

ほぼ一年、歩き慣れた道筋の変化を緩ってみて、東温市に住み始めて26年目になりますが、こんな近くに自然豊かでゆったり過ごせる場所がある事を知る良い機会になりました。軽い山歩きにも挑戦できればと思いつつも足への負担を考えるとためらいが頭をよぎってしまいます。足の筋力に自信が付く様来年もまた違ったコースを探し東温市の素敵な場所を見つけられるように歩きたいと思っています。(A M)

2010年11月17日、我が家は松山市を離れ、終の棲家と定めた宮崎県綾町に入りました。十数年前偶々訪れ、夫婦そろってすっかり虜になり、“退職後は綾へ”と憧れ続けた町でした。

結婚して38年間、14回の転居を繰り返した我が家にとって、24年5か月を過ごした愛媛県は生まれ育った呉市で過ごした時間よりも長く格別の場所になっていたことを、私は少し甘く考えていたようです。10月に入り、引っ越し業者と日程が決まり、松山で過ごす時間が確実に1日ずつ少なくなり、引っ越しが現実のものとなった頃から、私は些細なことで夫にぶつかってしまう様になり、自分自身の精神状態を持て余してしまっていました。どなたにも引っ越しの具体的なことを話さないことで辛うじて日常を維持していました。引っ越しを話題にすることを考えるだけで壊れてしまいそうでした。勿論お世話になった方々にご挨拶もせず去ることが如何に非礼なことかは充分に解っていました。それでも、私は最後まで黙っているしかなかったのです。

三崎港でフェリーの切符を買う時、往復ではないと気づいたときはどうにかなりそうでした。何時ものことですが、車で留守番できない飼犬の大五郎と共に車中に残った私は大五郎を抱きしめて泣けるだけ泣きました。この時ほど大五郎が頼もしく思えたことはありません。

昨年から定期的に綾を訪れ準備を進めていました。いつもならうきうきと眺める車窓に流れる景色も今回ばかりは綾が近づくとつれて、これからの生活への不安と心細さに押し潰されてしまいそうでした。

何時までも自分の感情に甘えているわけにはいきません。

- * 翌日から2日間に亘って運び込まれた膨大な荷物。
- * 早速に招待された自治公民館手作り文化祭。
- * 班(愛媛県の組)の忘年会への参加。
- * ゴミ出しルールの把握。
- * 荷物の山から必要品の探し出し。
- * 最も大変なのは県外への転居に伴う様々な住所変更手続き。今もまだ継続中です。

この忙しさと、刻一刻と表情を変える周りの景色に癒されて、少しずつこれからの覚悟が出来ていきました。そして何より、私の我儘を通したにも拘らず、転居を知った友人達から私には過ぎた惜別の言葉や温かい励ましの言葉を頂いたことが、私が立ち直ることが出来た最大の原動力でした。

くらしの学習会からは12月の予定の連絡メールも頂きました。もう私には連絡は来ないと思っていただけに、メールを見たときは本当に嬉しく、まだ私は仲間だといえるのだと実感できました。この望外の喜びは新しい場所での緊張に固まった私の心を優しく解きほぐしてくれました。

我が家が転出の手続きを始めたころ愛媛県知事選挙が告示され、告示はされていませんでしたが松山市長選挙も同日投票が決まり事実上の選挙戦が始まっていました。我が家には何れの選挙

の投票用紙も送られては来ませんでした。せめて愛媛県知事選挙の期日前投票はしたかったと思いました。どうにも気になるので調べてみると、愛媛県知事選挙の期日前投票は告示の翌日から出来ることは勿論、松山市長選挙についても転出後 4 ヶ月は選挙権が旧住所に残っており遠隔地投票が郵送で認められるとか。私の知識不足が招いた権利放棄でした。選挙管理委員会の対応は不適切且つ不親切だと思ってしまいました。知事選は当然期日前投票が出来た筈ですし、市長選も郵送で遠隔地投票が出来るのであればその旨連絡してくれれば良いのに、と。権利を行使するためには知識を持って尚且つ働きかけなくてはいけないことを改めて思い知らされた出来事でした。

そんな時、松山市からの封書が夫と私それぞれに転送されてきました。開封してみると、健康診断の日程の通知でした。既に転出日は過ぎ、綾町への転入も済んでいるのに、です。何時まで我が家の存在は部分的に松山市に残っているのでしょうか。可笑しくなっていました。それにしても、どの自治体も財政難に喘いでいる昨今、同一家族に封書で2通はあまりにも勿体無いと思えたことでした。

今年6月、7 年間という長い旅を終えて地球に帰還した、健気な小惑星探査機“はやぶさ”が持ち帰ったカプセル内の微粒子は小惑星イトカワの物と判断されたニュースが記憶に新しい中、金星探査機“あかつき”が金星周回軌道に乗ることが出来るかどうか連日報道されていました。成功すれば 12 月 7 日に軌道に乗るはずでした。残念ながら失敗しましたが、金星は大きさや太陽からの距離が地球と酷似している為、「地球の兄弟星」とされながらも、現在はまったく環境が違ってしまっていることから、金星を研究することで、地球の誕生や気候変動を解明することが出来ると期待されています。

ヴィーナスの名にふさわしい、明るく輝く美しさと夜明け前の短い時間しか見ることが出来ない明けの明星は一日の始まりを告げてくれますし、日没後現われる宵の明星には今日一日お疲れ様、とのメッセージを感じます。此方に来てから毎朝空が薄朱く染まり始め冴並が黒く浮き上がってくる頃、見守るように輝く明けの明星に、夕方ねぐらに帰る鳥たちの群れと共に薄暮の中にうすらと現れる宵の明星にしばし見惚れています。特に日々、姿、位置を変える月との様は見飽きることが有りません。

私でさえ心躍る金星です。もっと知りたい、調べたい、そんな気持ちは十分理解できます。しかし、人間が立ち入ることで宇宙の環境まで汚れてしまうのでは、と気になります。それ以上に、今まで、科学者たちの純粋で熱い探究心の産物の多くが軍事利用されてしまっていることを考えると、素直に探査機の成果を期待することが出来ないでもいます。

いつまでも、日の出の雄々しさ、日没の静けさ、日々姿を変える空に浮かび流れる雲、月、星たちを愛でたいものです。名前さえ知らなくても十分に魅力的です。見ているだけで幸せだと思っています。

ふたご座流星群の天体ショーがピークを迎えた14日夜は晴天に恵まれ、凍てつく冷気の中、外に出ると低い空に見えていたオリオン座が高く移動したところから星が流れるようになりました。こん

なにはっきり流れ星を見たのは初めてです。何か良いことが有りそうな気持ちになりました。

15日、早速嬉しいニュースに接することができました。

丸亀市の見習い警察犬“きな子”が遂に正式に香川県警嘱託警察犬として採用されることが決まりました。8歳です!!人間なら50歳近くの快拳です。今まで6年間挑戦し続ける姿が愛くるしいドジ犬として人気者になっていました。今年11月の競技会で優勝し採用が有望視されていました。我が家のヤンチャ犬大五郎より1歳上。他人事とは思えず注目していましたので喜びも一入です。

70年前に絶滅したと思われていた秋田県、田沢湖の固有種、クニマスが山梨県の西湖で棲息していたことが確認されました。京都大学博物館の中坊徹次教授から再現イラストを依頼された、東京海洋大学の客員教授でもあり魚の細密イラストでも知られるタレントの“さかなクン”がイラスト制作の参考にする為各地から取り寄せたヒメマスの中の西湖からのものにクニマスの特徴を備える個体があった為、京都大学の中坊教授に報告。遺伝子検査などの結果クニマスと確認されました。西湖では今までクロマスと呼ばれてそれほど注目されていなかったそうです。西湖では早速一部を禁漁区に指定するそうです。

今年もあと二週間足らずで終わろうとしています、世の中は心静かに新年を迎える訳にはいかないようです。

内部告発サイト、ウィキリークスによる国家機密の漏洩はネット社会のセキュリティの脆弱さをも露呈しているとも思えます。そしてもたらされる情報がどこまで真実なのか、ますます私たちは悩ましくなっています。

“一兵卒”と自称しながら総理大臣や幹事長すら会うことさえままならない小沢氏の言動と氏を取り巻く様々な思惑の駆け引きに日々うんざりしています。

アメリカとの二国間合意という国家間の約束が有りながら軽々に普天間基地は国外、最低でも県外へ移設、と声高に語り沖縄県民を翻弄した鳩山氏。二国間合意の修正の為の交渉は政権交代を果たしたその時が唯一無二のチャンスであったにも拘らず“学べば学ぶほど”の迷せりふの下、早々と辺野古への移設という従来の合意を踏襲してしまった責任は大きく、許されるものではありません。名護市長選でも県知事選でも辺野古への移設に沖縄は反対の意思表示をしました。11月28日県知事に再選された仲井真氏の“基地問題を沖縄だけでなく日本全体の問題として考えて欲しい”との言葉は全ての日本国民への宿題です。沖縄は嘆きを抱えたままの年の瀬です。

大阪地検の証拠改ざん事件という、有ってはならない大汚点は遂に前代未聞の検事総長の引責辞任表明に至りました。せめて検察庁には絶対的信頼を持ち続けさせて欲しいものです。

今年は我が家にとって大変な年になりました。過去14回の引っ越しは転勤に伴う受動的なものでした。今回は、自身で望み、決断した、初めての積極的転居です。しっかり根をおろしたいと切望する日々です。引っ越し荷物の箱の中で発芽が始まってしまっていた1000球近くの水仙の球根を慌てて地植えしました。数日後、白くもやしの様だった芽が緑濃く水仙らしい葉になりました。

来年こそ心穏やかな世の中になります様に。

(K.O.)

お知らせ



・総会のお知らせ

1月5日(水) 午前11時から 林宅にて

総会では、今年度の活動を振り返り、会計報告のあと、来年度の活動について話し合います。また、総会終了後、一品持ちよりで新年会を行います。皆さまのご参加をお待ちしております。参加の可否を前日までに林までお知らせください。

・読者の声・投稿などお待ちしております。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

かねてより闘病中だった賛助会員が、12月10日お亡くなりになりました。よく、会報を読んだ後の感想を葉書に書いて送って下さいました。その内容に、ずいぶん励まされたものです。まだ、ホームページが充実する前の議会報告の記事のご要望もいただきました。会員二人で告別式にうかがいましたが、6人のお孫さん一人ひとりの故人への語りかけ、楽器演奏、歌、最後の喪主であられる息子さんのお言葉に、それまでの親子、家族関係の密度の濃さがうかがえ、感激しました。心温まるいい告別式でした。ご冥福を心よりお祈りいたします。

大変熱心な活動会員の一人が、突然引っ越してしまいました。本当にショックでしたが、今は、日本中に会員のネットワークが広がっていくんだと前向きに考えることにしました。なかなか会えないのはつらいですが、インターネットでは常につながっています。メールの文面からその生活ぶりを想像する毎日です。よいお年をお迎えください。来年が、皆さまにとっていい年でありますように。

(T・H)